

| | |
|------------------|--|
| 管轄森林管理局・署 | 関東森林管理局 静岡森林管理署 |
| 所在地 | 静岡県富士宮市 |
| 面積 | 4.84 ha |
| 設定年 | 1991(H3)年 |
| 保護林の概要 (設定目的) | 標高 1,500m~1,600m の富士山の亜高山帯植生を代表するウラジロモミ、ハリモミ等の針葉樹にブナ、ミズナラ等の落葉広葉樹が混交する天然林で、富士山の植生分布を知る上で貴重であることから、針葉樹と落葉樹が混交する群落の希少な個体群を保護するため設定した。 |



ウラジロモミ群落(2019.11.28撮影)



ニホンジカによる被害状況 下層植生の消失
(2019.11.28撮影)

モニタリング調査概要

| | |
|------|--|
| 実施年度 | 2009年、2014年、2019年 |
| 調査項目 | 樹木の生育状況調査、林床植生の生育状況調査等 |
| 調査手法 | 森林詳細調査として、ウラジロモミの生育地において調査プロットを1箇所設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握。森林生態系多様性基礎調査の結果も活用。 |
| 結果概要 | 針広混交林の維持に問題は生じていないと評価される。ブナ老齢木の枯損が認められることから、今後は常緑針葉樹であるウラジロモミがより優勢となり、ウラジロモミ林へと推移していくものと考えられる。ニホンジカの食害により植生の動態が妨げられていることから、更新の状況に主眼を置いて監視するとともに、更新樹木を育成させるためシカ侵入防止柵の設置やシカ生息個体数の調整など抜本的な対策が必要と思われる。 |

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。